

(4) 講師について

研推長を含め4～6名程度で研究員の実践をサポートしていきたい。

4 夏季ゼミナールについて

(1) 会場（担当地区）

- ・1年ごとに各地区で持ち回る。

年 度	R 5 年	R 6 年	R 7 年	R 8 年	R 9 年	R 1 0 年	R 1 1 年
地 区	飛騨	岐阜	美濃	可 茂	東濃	西濃	飛騨

※令和3、4年度はオンラインシステムを利用して開催。令和5、6、7年度はオンラインシステムと現地参集型のハイブリッド型で開催。

※県大会担当地区が県大会実施の前年度に夏季ゼミを担当する。（R7美濃、R10西濃）

(2) 発表者

- ・担当地区からなるべく多くの発表者を募る。
- ・全県下より常任委員が募集する。
- ・研究員は研究員在籍年もしくは次年度に発表する。
- ・中理研にも発表者を依頼する。（小・中理研の交流）

(3) 参加者

- ・担当地区は参集型での開催を原則とし、よりできるだけ多くの参加が得られるように呼びかけるとともに、オンラインでも開催し全県下で広く参加できるようにする。

（夏季休業中の各郡市の教科研究会と兼ねるなどの工夫もある。ただし、各郡市の部会長、事務局への報告、連絡、相談が必要。さらに中理研へも連絡する）

(4) 地区の担当業務

- ・実践発表者の手配（3名以上）
- ・会場の手配と当日の会場準備、設置
- ・講演会の手配（講演者の手配と打合せ）

(5) 県小理研事務局の担当業務

- ・実践発表者の不足分の手配（6名に満たない分、2、3名程度）
- ・助言者の手配（研究顧問・指導主事に依頼）
- ・オンラインシステムの運営（現在200名まで参加可能なグレードでWebExを契約）
（→ブレイクアウトすると人手が足りなくなるため、県小理の人員を調整する。）
- ・当日の運営（開閉会式、実践発表など）

5 県大会について

(1) 会場

- ・3年ごとに各地区で持ち回る。
- ・会の持ち方については、担当理事と県小理研事務局で検討し、決定する。
- ・担当地区は、各市町の部員に運営の協力を依頼するとともに、学校や個人の発表にとどまらないよう、各市の研究推進ならびに部員の育成に努める。

年度	H19年	H22年	H25年	H28年	R元年(全国)	R5年	R8年	R11年	R14年	R17年
地区	西濃	岐阜	飛騨	可茂	岐阜	東濃	美濃	西濃	飛騨	可茂
会場校	池田小	牛牧小	東第一小	神湊小	長良西小・牛牧小・柳津小	上矢作小	4校			

(2) 令和8年度県大会について

- ・開催地区 美濃地区（関市）→金竜小、旭ヶ丘小、南ヶ丘小、下有知小
 - ・関市にて授業公開と実践発表、講演を計画している。
- ※実践発表の人数は会場の規模や地区の実情に応じて調整していく。